

●小春日や香香ころころパンダ園

谷垣満壽子

香香ころころ、の調子のよさ。見る頻度は減ったが、木登りをしているところを最近テレビで見た。活発な動きが可愛い。句にするに、(話題になっている)香香には、少し難しさがある。冬の句というところで、香香を読む。

冬座敷、冬の薔薇では直接に冬だが、冬浅し、浮寝鳥、朝時雨ともなると、そうした断りは後景になるようだ。冒頭句、冬浅し、の季語感を新鮮にかんじた。

ブロッコリー彩よく茹でて冬浅し

●手袋に獣性隠しいたりけり

新野祐子

獣性というコトバの凄さもある。手袋の句を検索して「けもの臭き手袋呉れて行方知れず(西東三鬼)」があった。普通に手袋に隠すのは手。この、に、の働きのいろいろだ。手袋そのものに、と手袋の中に。皮手袋もある。獣性は、ここでは闘争心のようなものか。

谷垣さんの「池に日のゆらめきありて浮寝鳥」と同じ浮寝鳥の(句)、「浮寝鳥のみどにうれい溜めており」には季語の掴み方の違いが出ているようだ。こんな句もいい。

日脚伸ぶちちはの足揉みおれば

●午年の守り本尊なるといふ上町勢至堂に六年まもらる

布宮慈子

むとせ、には柔らかく包み込まれるような語感がある。六年ということだが、帰郷して六年が経過したということと読んだ。勢至堂は上町にあること、そのことで近在(の御堂)ということも判る。検索すると、この本尊は得大勢至菩薩で、同じ阿弥陀仏の脇侍、慈悲門を司る観世音菩薩に対して智慧門を司るという。

歌は、他の歌でもそうだが、在所を詠んでいる。気付きでもある。この歌がいい。

空がら降つてくるものは避けらんねと母上いへり格言のごと

●三十余年まもりくれたる玄関の扉とり替ふ年改まる

丸山弘子

庭先の鴨、雀、メジロから近所の、アリス(犬だろうか)の飼主、七五三の装ひの少女、に及び、離れて横浜奈良町、記憶のなかの禮さん、もどってくるようにして玄関の扉、が詠われた。さいこの歌では、明日の雪搔きを案じている。生活の範囲が、当然に歌の範囲になっている。そのなかで、一つ一つが出来事である。

掲出の歌でも、玄関の扉をとり替えてそこで年も改まる。横浜奈良町の固有名詞がいい。

訪ねたる横浜奈良町どの家も庭の柿の実みのらせしまま

●次々に蒼つばみの立ちてシクラメン窓辺に入浴びて咲きゆく

市川茂子

とても素直な歌だ。シクラメンの花が咲いていく様子がていねいに表現されている。一つひとつの花は大きいような感じがする。ところで、シクラメンは冬になるとよく見かけるし、自分でも買ったりするのだが、うまくいく年とダメにする年がある。特に暖かい場所を好むわけでもないらしい。とにかく日光が当たるところがベスト。窓辺は最適だろう。作者はシクラメンの性質をよく知っているのだ。最近わかったことがある。花が咲き終わったら枯れた葉を取り除いて、雨の当たらないような庭木の下あたり、風通しのよいところに置くだけで、夏を越させることができるのだそう。植え替えとか難しい作業が必要だと思いついていたが、それでもなさそう。早速試してみよう。次の歌は、東京でも雪の多かったことしの冬を象徴するような一首。生活感がある。

予報より早く降りだす雪なれば混み合うスーパーのレジに並べり

●子の足に足袋の記憶も行田駅今あますなく田渡る光

小野澤繁雄

一連のタイトルは「近鉄ちかてつ」である。88号の短信に作者はこう書いている。「東京に近いローカル線に乗るのを楽しんでいると川本三郎さんが書いています。近鉄（ちかてつ）というのだそうです」。歌は、秩父鉄道や東武伊勢崎線、宇都宮線、京浜東北線、埼京線に乗ったときの様子だ。行

田市は、昔から日本一の足袋の生産地として知られており、「足袋蔵」が数多く残る。足袋のまちであるという。子どもの足に履かせた足袋は、お祭りのときでもあつたらうか。田を渡るのは風ではなく、光。列車の窓から、きらきらと光って見える田んぼが清々しい。次は、ローカル線の風情が感じられる歌。乗客と駅員は知り合いのようで、軽い会話を交わしている。

しりあいの駅員なるややりとりに羽生行きに羽生まで乗るといふ人

●十五もの歳をへだつる長の姉幼き日よりの憧れなりき

河村郁子

いちばん上のお姉さんと十五も年が離れているのだという。いまでは考えられないが、きょうだいが五、六人はざらにいた時代なら普通のことだったかもしれない。二首目の「ベルトに櫻の校章」は、東京の学校に疎いわたしにはわからないが、お姉さんはかなり優秀でそれなりの学校に通っていたのだ。しかし、五首目「家業継ぐ定めを負ひて進学を断念」したというから、その悔しさは相当のものだったろう。何十年か前まで、進学や就職、結婚も自分の意思で決めるわけにはいかなかったようだ。親の言うとおりにしなければ、勘当に等しい扱いが待っていたかもしれない。お姉さんとの直接のかかわりがわかるのは次の歌。

保育士の資格取得は許されて童謡遊戯をわれにも教へる